

授業科目名	担当者名	授業形態	授業期間	単位数	コマ数	対象	科目ナンバー
人権問題入門	脇田 孝豪	講義	前期	2	1	1年次生以上 教養科目	ZGE130

科目の概要

実際の人権問題事例（いじめ、女性・民族・部落差別、等々）に関する映像資料を題材にして、暗く悲惨に見える中に潜む輝かしい人間性の発露を発掘して、先人たちから、人生を人間性豊かに生き抜く知恵を学ぶ。（講義と討議をベースとし、期に2回のフィールドワークを実施。）

科目の目標、ねらい

人権尊重は現憲法の三大原則の1つである。しかし「人権」の捉え方は曖昧模糊としている。本講座は、身近な人権問題を題材にして、人類社会の構造と在り方を解き明かしながら、差別や偏見にとらわれずに、人生を人間性豊かに生き抜く知恵と力を身に付けることをめざす。

到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）

1	身近に存在する様々な人権問題（社会問題）に気づき、自分なりの課題意識をもって社会現象を考えることができる。
2	差別や偏見の中で人間性を深め磨いてこられた方々に共感し学ぶ中で、自らの人間性を深めて「世間」を拓けることができる。
3	自他の人権侵害に気づいた際、どのように問題を把握して解決に導くかを、自ら考え行動できる知恵と力を身につけることができる。

週	テーマ	授業内容	事前学習（内容/時間） 事後学習（内容/時間）	AL
1	「人権」とは何か？	自分の課題意識を確認しつつ討議等を通じて互いに交流。		○
2	差別事象の具体事例	ある学校での差別事象と生徒たちの訴え（音声テープ）。		○
3	世界史にみる差別事例(1) （黒人差別①）	映画『ミシシッピー・バーニング』を視聴し、実態に触れる。		○
4	世界史にみる差別事例(2) （黒人差別②）	M. R. キングのDVD視聴、オバマ大統領の就任演説、等。		○
5	世界史にみる差別事例(3) （ユダヤ人差別①）	NHK『映像の世紀』視聴し、ナチスによる大量虐殺等を考察。		○
6	世界史にみる差別事例(4) （ユダヤ人差別②）	「ユネスコ憲章」と、イスラエル建国＆パレスチナ難民問題を考察。		○
7	日本史にみる差別事例(5) （部落差別①）	「DVD歴史教材」を視聴しつつ、被差別部落の歴史を概観。		○
8	日本史にみる差別事例(6) （部落差別②）	「水平社綱領・宣言」、国の「同対審答申」の歴史的意義。		○
9	日本史にみる差別事例(7) （在日韓国・朝鮮人問題）	日韓・日中交流史を概観しつつ、在日外国人問題を考察。		○
10	日本史にみる差別事例(8) （障がい者問題）	「サラマンカ声明」等を踏まえ「障害者差別解消法」を検討。		○
11	世界共通の差別事例(9) （女性問題）	「男女雇用機会均等法」等を教材にして「女性問題」を考察。		○
12	「国立民族学博物館」見学 （週末に振り替えて実施）	膨大な所蔵「視聴覚教材」で自分の課題意識を煮詰める。	「第一回レポート」1時間	○
13	自分の主要な人権課題 は？	全「授業アンケート」の集約し、課題意識の交流＆意見交換。		○
14	「リハビリおおさか」見学 （週末に振り替えて実施）	膨大な所蔵「視聴覚教材」で自分の課題意識を煮詰める。	「第二回レポート」1時間	○
15	意見発表・交換（プレゼン）	意見発表（プレゼンテーション）と質疑応答、講義全体のまとめ。	「第三回レポート」1時間 （プレゼン原稿作成を含む）	○

受講生への助言・留意点

誰にも特にこだわりを覚える人権課題がある。それが根が深く解決困難である程、人権問題を考えるための一番の手掛かりとなる。そのことに逃げずに向き合い続けていると、必ず、先人の誰かが同様に悩み、深く考え、途中までの解答を考えてくれているはず。

教科書・参考文献

教科書	なし
参考文献	「水平社綱領・宣言」、「在日外国人」（田中宏著）、ユネスコ「憲章」、「サラマンカ声明」、「ユダヤ人問題を論ず」（マルクス）。

成績評価方法及び試験方法

定期試験は実施しないが、毎回、「授業アンケート」を提出。概ね、「授業＆アンケート」50%、「下記3回のレポート」50%、「最終口頭プレゼン」20%で評価。第一回レポート「視聴した文物とその理由」（見学後に提出）、第二回レポート「特に関心のある人権問題とその理由」（第14週のリハビリ見学前に提出）、第三回レポート「（人権問題について、タイトルは自分で考える）」（第15週のプレゼン後に提出）。

オフィスアワー（授業期間外は事務局掲示にて連絡）

・講義のある曜日の13-15時（場所は非常勤講師控室か図書館）。	研究室：非常勤講師控室
----------------------------------	-------------